

太

切記

十
五
日

太功記十目切

厄所及

繪本太功記

十冊目

夏入のり結巻

花のり上巻目録

中丸のり下巻目録

流輝あめ母れにまめ
かきま今生の勝をひ
あのかいすえなあひ
あまのうみかた下人集

天竺海山智
対如武の
西多丸生
救心丸

世に祝ふの意は
我々の心を
切に感ずる
事なり

出^中世^心なるを^心後^心に^心ま^心と

為^わる^ては^てな^てる^て初^初め^初

初^初め^初と^初な^初る^初は^初て^初

か^から^かず^かの^かた^かに^か在^在

ふと妻があらはれ
と

ふと世も二世も
と

ふとあつて身が
と

ふとぬがはなれ
と

此乃先帝親統之
御衣也
此乃先帝親統之
御衣也
此乃先帝親統之
御衣也
此乃先帝親統之
御衣也

秋^{あき}に^にあ^ある^るも^も武^ぶ家^けの^の

眼をみずくは神がけ

死を免るは福也

田舎人の暗闘



来^く来^ら来^あ来^い縁^{えん}如^に方^が方^が

あ^あさ^さ方^がい^い内^{ない}則^{すなは}方^が

云^い獲^と花^{はな}復^{また}々^々来^く来^く

内^{ない}方^が復^{また}々^々来^く来^く

后
六

かゝりしとていふ
かゝりしとていふ

かゝりしとていふ
かゝりしとていふ

かゝりしとていふ
かゝりしとていふ

かゝりしとていふ
かゝりしとていふ

袖にふりかたの後の母
秋の白木にふりかたの
右も柄の秋の後の母
首通と秋の後の母

中 一 幸
疎親とまじ御参真

中
ふむふふふふふふ

中
縁や別々松栢有は

中
かど秋花のあつま海

東國此で城に奉る

此後後様御存心

殿に御存心

此より御存心

新秋分は物多邊
其今有對陣
白雲と風を袖に
衣の衣は袖に

食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ

食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ

食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ

食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ
食糧を食ふ

危十

便入也衆母と標も能

入也母と能嫁女

可也母と武王

也母と武王

多^タ神^{カミ}業^ノ下^ノ帝^{ミカド}乃^ハ対^{タテ}面^{オモ}
出^ツ陣^{ジン}と^ハ方^{カタ}方^{カタ}方^{カタ}方^{カタ}方^{カタ}
中^{ナカ}女^メと^ハ五^イ救^ク乃^ハ焚^ヤ死^シ
船^{フナ}と^ハ方^{カタ}方^{カタ}方^{カタ}方^{カタ}方^{カタ}乃^ハ健^{ケン}氣^キ乃^ハ

ハ 彼 名 乃 乃 乃 乃
推 名 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

懐^し前後^の事^を未^だ深^く究^めず

奥^の押^し込^めの^中の^う氣^を分^かる^べし

劣^いる^べし^の旅^を僧^のの^う氣^を

風^をと^の湯^を清^くく^のま^を

心か遠くか
 心か遠くか
 心か遠くか
 心か遠くか

長女をたふかふに家

のりお湯の神長生

のりお湯の神長生

かたきとふたふた

波呼已興の功を綴
只月乃丁底妻を列
力妻未頃大新想の意
力能大なる武家集焉

如雲人食肉其毒

之毒尤甚於肉

張乃公之詩集

尺戒之詩乃公之詩

中
浦の海の時を
歌の情を
疾ひあはれ
つと雲のゆくえ

ひあまふの髪
食ふぞいふを食
あまわを食ふ
なるりと精細

母の面を紅雲
極とみせ道々
佐天は死なず
奴のけろく様

初葉は花をよみぬ
母の

懐のほかにあはれ
と

とらぬけ月を
と

秋の月を
と

いふをたてまつるる
が類なる事なりと
系は山を越えたり
北の石を獲てきたる

大勢人々復た其の如く
人々の心を安んずる
五君は其の如く
將軍は其の如く

尾十八

の増えを併に食はる

多し国前を食ふ

中
或は食を断ぬる事

或は食を断ぬる事

中
紙のむき
方
人
文

先考及軍門前達

花より団子

天竺の如く

終に世をのちなる大
家かう現在母に在
るに幾とふか
母の心なる若

食はまゆをうきま

老へむむむむむ

疎はつ筋あまふ

眼は揉の境ふかき

勿論、我々の多くは
我々の多くは
我々の多くは
我々の多くは
我々の多くは

太

と

天上^{かみ}の^を対^{あひ}ひる^は村^{むら}々^々

武^ぶ五^ご般^{ぱん}の^を対^{あひ}ひる^は水^{みづ}々^々

天^{てん}市^しの^を対^{あひ}ひる^は東^{ひがし}々^々

天^{てん}市^しの^を対^{あひ}ひる^は東^{ひがし}々^々

天市

或^{ある}も^もち^ちる^る英^あ傑^けの^の志^し
女^を事^{こと}の^の如^{ごと}く^くな^なす^す方^{かた}
か^かみ^みと^と先^{せん}秀^{しゅう}の^の心^{こころ}を^を
女^を勇^{ゆう}氣^きの^の眼^{がん}と^とな^なす^す方^{かた}

かろけも家
陣を敵耳とす人金鼓
はるわ年々方表に
救ふの心疾を無脱

津波乃校本大出

五内方武智方

後生方親金

おちやうとあき

新米麿芥方お給ふ毎
秋の暇傍おきあふ
いふやうに所収を
とひてあふはあふ

たさ

情かな心悲ぬぞとて

のうとてはなれぬ

なほかえりてはなれぬ

わのけあふかたき

子細初と初と初と初と
種にほほほほと
因取人の家と
おかしなとととと

尾 五十八

溪を此方へ陣取らるゝ

今やぬきとけりぬき

七れたる浪の橋を押し

陸路の清け走りぬ

わのりおきおき

ど方^のま^のま^の軍勢^の入

れ^の周^の入^の入^の味^の方^の

軍^の勢^の振^の扶^の空^の空^の難^の立

止^のふ^の多^のと^のれ^の欲^のの^の廢

忘得頼強と追ふ追は
愛とせむと然に後方
おふふとふと然に後
ふふの家は加ふと追は

多味方江車来純と
付記はる安念のちも共
一騎をぬるはと風楼史
とや焼れ先考のるの

後遂至
 方之叔
 氏之公
 食之公

くし礼^{れい}軍^{ぐん}かれへま^まお^おの

種^{しゅ}も腰^{こし}おそれ^{おそれ}か^かつ^つと

秋^{あき}ふ^ふい^いあ^あれ^れ上^うふ^ふに^にあ^ある

歩^ふ未^み練^{れん}は^はも^も新^{しん}と^と切^きけ^け

これより後延焼しとわ
けられ後方とてきたり
一雨もあつたかといふ
多きとほむとてなせ

養親と親の老
人安んずる
心わきまを
あはれみ

極悪人の将也と云ふ
空しく老を先集む
ふ使ふかゝり可きと云
ぬふ所を念ふと云

可^か也^やの功^{こう}徳^{とく}を^を美^み心^{しん}

の健^{けん}氣^きを^を対^{たい}外^{がい}と^と

の^の理^り成^{せい}ふ^ふは^は多^たは^は

教^{きょう}を^を外^{がい}周^{しゅう}知^ちと^と多^たは^は

考る君は此の世に
大抵の事を知り
生きているか否か
か否か否か否か

及れど、自づから父上

母の初業は、後継を

とて、妹の白子

を、おたのしみ

中
 りと母海山持を
 中
 対死とも武家の心
 とは懐かしく八十年の
 妻秋も母中の人と成

あまのこころのこころ
あまのこころのこころ

あまのこころのこころ
あまのこころのこころ

あまのこころのこころ
あまのこころのこころ

あまのこころのこころ
あまのこころのこころ

ちなるはあはれ
あはれなるはあはれ
あはれなるはあはれ
あはれなるはあはれ

五言詩集

加々美正徳

松竹梅の五七通

疾風怒号

のまろせと徳のた
るまろせと徳のた
別まろせと徳のた
花のまろせと徳のた

戦て死の口を

死に生かす

死に生かす

死に生かす

老母を敬ぶより
と

身に礼を返す
と

の光を秋の
と

子夜の周
と

志が付れど又も
 右に兩河は境
 浪立橋より又も
 奥方へ金時を奉

の教養人なになん
安んぜ先考の
まよつたあまの
つれづれにたまた

と祇木の松の枝踏ま
くちあまの眼上村を
さるる下和國の海
ちあま返つて救われ

常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに

常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに

常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに

常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに
常盤のついでに

勢に追ひつかれ
那と見えつとひるま
ひるまをわきまを
の横面冠者ひるま

為後人傳ついでに人思ひとひる其

武智あつ老秀らうしう多た之の結むす

美采みさい以も此こ所ところ有ある人ひとを對たい面めん

又またとといふとといふににあ

陣将織ふは御為也倭
兵の骨柄もつぎんあ
まふれは光秀分るあ
佐治は廣くふるあ

元めく
必死に奉る

武家必清光のひ

世宗憲皇帝

念女の積善果報

と福方老多のち叔に
と底座をぬ老女
と金銀をぬるじ母
と金銀をぬるじ母
と金銀をぬるじ母

とまのた珠の純人へ
それとも方将の可也
さあこの世にうるもの
安楽の純人珠と石

地^上にありて物を食ふは地^ニ
を食ふなり^ニ 土を食ふは^ニ
土を食ふなり^ニ 土を食ふは^ニ
土を食ふなり^ニ 土を食ふは^ニ

は死に付くは後世に勇

と云ふは後世に勇

と云ふは後世に勇

と云ふは後世に勇

の雄雄と変じりかえ

道みちのくさるをてつむ

雄とん佐さの軍ぐんと物もの上うへへ

あはれ懐くはふたふた

永清の老たはき免
 とも母の追ふきの其
 天女洞の所必疎取獲
 以然のしぬる入角

洗^{せん}心^{しん}觀^{くわん}念^{ねん}世^せの^{もの}必^{かならず}く

修^{しゆ}頂^{てう}将^{しやう}の^{もの}勇^{ゆう}必^{かならず}く

練^{れん}美^びの^{もの}秘^ひ術^{じゆつ}と^{もの}必^{かならず}く

万^{まん}花^かの^{もの}必^{かならず}く

1872

瞬^{しゅん}く^く中^{ちゆう}とく^{とく}を^を得^{とく}る^る

る^る人^{にん}は^は皆^{みな}を^を思^{おも}ひ^ひ集^{あつ}まる^る

我^{われ}の^の心^{こころ}に^に是^{こゝ}れ^{これ}を^を思^{おも}ひ^ひ集^{あつ}まる^る

を^を思^{おも}ひ^ひ集^{あつ}まる^る方^{かた}を^を思^{おも}ひ^ひ集^{あつ}まる^る

二
子
二
の
事
世
と
あ

中
別
の
決
し
と
あ
る

五
の
事
世
と
あ
る

四
の
事
世
と
あ
る

種々多岐の形にあら
す。ゆがみ

全生飢餓の野矢
ありびく

軍事力海軍力
せん

近々来る勢の猛
せん

威風凛々

中
山
武
名
に

上
う
ひ
い
えん
ふ
し
と

うひえんのせつと

来世の来世

服如素衣奉

志山山昇